



研究テーマ

慢性疾患児の自立にむけた療養支援に関する研究

子どもの生活と子育てにおける世代間交流推進に関する研究

遺伝看護の継続教育に関する研究



野間口千香穂

のまぐち ちかほ
医学部
看護学科

小児・母性看護学講座
小児看護学領域

教授
キーワード

小児慢性疾患、自立支援、療養支援、セルフマネジメント、セルフマネジメント支援、親への支援、子育て、子育て支援、世代間交流、子どもの健康問題、遺伝看護

特許情報・
共同研究・
応用分野など

平成 25 年度～28 年度基盤研究(C)「小児慢性疾患思春期患者のセルフマネジメント支援を行う看護師の教育プログラム開発」(研究代表者)
平成 27 年度みやざき地域志向教育研究経費「子どもの生活と子育てにおける世代間交流の推進プロジェクト」(研究分担者)
平成 26 年度～29 年度基盤研究(B)「臨床遺伝看護分野の継続教育プログラム開発」(研究分担者)
平成 25～27 年度厚生労働科学研究費補助金(成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業)、分担研究(及川郁子)「患者・家族に対する支援体制の構築に関する研究」(研究協力者)

研究概要

健康障害の有無にかかわらず子どもとその家族の健康生活支援を行うための研究を行っています。特に慢性疾患児の自立に向けた療養支援について、慢性疾患児と家族の体験、看護の質の向上、そして学校や幼稚園の先生方や保育士、患者・家族会との連携を推進するための研究、ならびに子どもの健康生活と子育てを支援する上で、世代間交流による影響に注目した研究を行っています。

1 慢性疾患児の自立にむけた療養支援に関する研究

医学の進歩によって慢性疾患をもつ子どもの多くが成人期を迎えることができるようになりました。そのため、診断を受けた時から将来を見据えて、子ども自身が自立にむけて取り組んでいけるような子どもの成長に合わせた療養支援が必要です。子どものライフステージに合った慢性疾患児と家族への支援方法を開発するとともに、医療関係者と教育福祉関係者と連携した療養支援体制の構築を目指して、研究に取り組んでいます。

2 子どもの生活と子育てにおける世代間交流推進に関する研究

子どもの生活における健康問題や子育てにおける課題は、社会の変化とともに変化しています。少子高齢化社会において、子どもと関わる機会のないまま親になっていることや家族による子育てのサポートが得にくくなっていること、さらにコミュニティの希薄化によって、世代間での継承がおこりづらくなっています。そのため、地域の中で子どもたちが健やかに育つ生活環境を地域ぐるみで作っていくことが求められています。そこで、子どもの生活と子育てにおける世代間交流を促進することで、子どもの健康と成長を守り育てる地域の子育て環境を維持・推進できる人材育成のために取り組んでいます。

3 遺伝看護の継続教育に関する研究

遺伝学的情報が病気の診断や治療、予防などに活用されるようになり、現在遺伝医療が発展しています。それに伴って、看護師は患者様や家族から遺伝学的検査に対する不安や迷い、家族への影響に関する相談を受ける機会が増加しています。このような背景のもと遺伝看護という専門分野が生まれました。これからの遺伝医療におけるよりよいケア提供を目指して取り組んでいます。

ホームページ

医学部看護学科 <http://www.med.miyazaki-u.ac.jp/home/kango/>

技術相談に応じられる関連分野

- ・小児を対象とした看護研究方法について
- ・慢性疾患児の療養支援モデルと人材育成について
- ・世代間交流を促進するための子育て環境について

メッセージ

慢性疾患児の療養支援や子育て支援は、地域における支援が重要です。そのためのニーズがあれば、ぜひご連絡ください。